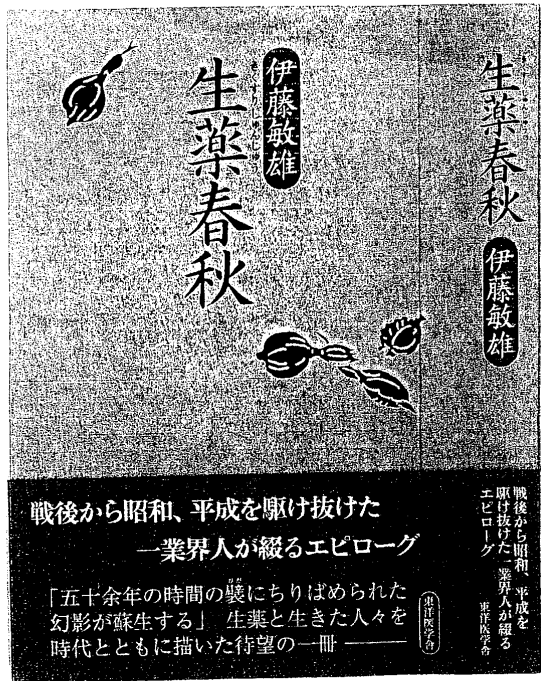


伊藤敏雄名誉顧問出版書籍のご案内

伊藤敏雄名誉顧問の著書が出版されました。
秋葉哲生先生より、ご推薦のお言葉を頂きましたのでご紹介させていただきます。



定価 (本体 2500円 + 税)

伊藤敏雄著『生薬春秋きぐすりしゅんじゅう』（東洋医学舎刊）を読む
秋葉哲生

小粒だがピリリと締まった好著が出た。著者の伊藤敏雄氏は、昭和 25 年に和漢薬種問屋内田商店（現、株式会社ウチダ和漢薬）に入社して以来六十数年間和漢生薬の取引に携わってこられた。同社の会長職を退かれてから、「漢方医薬新聞」の前主幹長谷川佳哉氏の勧めによって同新聞に連載したエッセイ 181 篇をまとめたものがこの『生薬春秋』である。それらは内容によって五章に割り振られていて、第一章わが尊敬する師友先輩方、第二章わが骨肉の生薬たち、第三章わがもとに集いしときお宝たち、第四章わが人生をいろいろ旅の数々、第五章わが人生の雑のそれぞれ、という構成である。氏は月間『和漢薬』を、創刊号から六〇〇号までお一人で編集を手がけられたという知人ぞ識る名編集長であり、文筆の道の経験も豊富な方である。

本書の題名も『生薬春秋』とし、わざわざ「きぐすりしゅんじゅう」とルビが付してあって、その理由が文中に語られている。

第一章に登場する「師友先輩」には戦後の日本漢方を牽引してきた方々が多く含まれており、氏の視点からみた興味深い事実が盛り込まれている。正面からの歴史を正史と云うとすれば本書は日本漢方の側面史とでも呼ぶべきものであろう。

著者の文章は簡潔直截で淡泊な余韻を残す。わが国の戦後漢方医学を哀惜の念をもって語ることのできる著者は数少ない。

学友すべてに座右の書として推奨したいと思う。

(医師：〒289-1805 千葉県山武市蓮沼 ニ-2079 あきば伝統医学クリニック)